



農業と自然の尊さを

絵画で伝える

農民画家(中央市)

志村 さとみさん

幼い頃から絵を描くことが好きだった志村さとみさんは、武蔵野美術大学に進学して油絵を専攻し、人物像を中心に描いていました。大学での学びの中で、将来は美術を通して社会貢献をしたいという思いを抱くようになっていったそうです。

「私は大学卒業後、1年2カ月の間、中国の大連に留学しました。中国を選んだのは中国の美術や漢字が好きだったからです。現地では、まず語学を学んでから、ファッションデザイナーの助手として、ショーでモデルが着る衣装に絵を描く仕事をしました。休日には、北京にある若い芸術家が集まるエリアに行ったり、美術館にも足を運んだりしました。そうした中で、中国画の伝統を生かしつつ、自分たちの新しい感性を入れ込んで作品を創作する人たちに触れ、私も水墨画のような日本の伝統美術の上に自分の表現をしていきたいと思うようになりました」

帰国後、Uターンし、ワイナリーに就職してからも、絵を描き続けていたという、さとみさん。描いたのはブド

— 山梨への移住相談はこちらへ — やまなし暮らし支援センター

専門相談員が常駐し、山梨への移住や就職について、ワンストップでお手伝い。移住セミナーや各種イベントも開催しています。

■市町村相談ウイーク

市町村の移住コンシェルジュ、移住担当者が、やまなし暮らし支援センターの窓口で皆さまのご相談に応じます。詳しくは、やまなし暮らし支援センターのHPで確認ください。

東京都千代田区有楽町2-10-1

東京交通会館8F NPOふるさと回帰支援センター内

TEL.03-6273-4306 FAX.03-6273-4307

E-mail:yamanashi@furusatokaiki.net

利用時間：火～日曜日 10:00～18:00

やまなし暮らし 検索



鉛筆で水墨画のような濃淡を描く、さとみさん。「水墨画は一色でありながら、さまざまな色が表されますが、私はそれを鉛筆で表現したいと思っています」と語ります



「為活而作(いきるためにつくる)」
(第77回山梨美術協会展 山梨美術協会賞受賞作品)



自宅の近くに借りたブドウ畑で

ウ畑で一生懸命働く祖母の姿。描くうちに見る人が農業に対して少しでも気持ちに向けてくれるような作品をつくり上げたいと思うようになっていったといいます。

「私はすべてのお年寄りを尊敬しています。現代つ子で苦労をしてこなかった私は、祖母からいろいろ話を聞くうちに、祖母のしわの一つ一つに意味があると感じるようになりました。さらに、しわは造形的にも美しいと私は思っています。

私の絵に影響を及ぼしている山梨の風土や自然環境は、フランス人画家ミレーが暮らしたバルビゾン村と似ていることもあり、自然とミレーを意識している部分はあるかもしれません。画風が似ているね、と言われることもありうれしく思います。

今は自分が描く農業の絵に、もっと思いを入れ込みたいと思います。ブドウ農家としても始動したところですが、畑を借りて今年初めて苗を植え、3年後の収穫を目指しています。『美術と農業を結び付けた社会貢献』その明確な答えを見つけるのはまだ先になりそうですが、一歩ずつ堅実に歩んでいきたいと思っています」